

営農情報（水稻）

平成30年7月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

今年の田植えは、6月23日頃を中心に行なわれました。苗の活着は順調でしたが、日照不足や大雨によりやや軟弱徒長気味の生育となっています。

また、6月末から7月上旬にかけての大雨によりオーバーフローしたほ場では、初期除草剤の効果が低下し、雑草が多発する可能性があります。

今後はほ場をよく観察し、水管理や除草、施肥、防除など、適期作業に努めましょう。

2 除草剤

○初期除草剤を散布できなかつたり、大雨等により効果が薄れ雑草が残っている場合は、中・後期除草剤を使用しましょう。

薬剤名	使用時期	散布量 10a当たり	備考
ワイドアタックSC (液剤)	移植後20日～ ノビエ6葉期	100ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水して雑草にかかるよう散布
クリンチャー 1キロ粒剤	移植後25日～ ノビエ5葉期	1.5kg	○水をためて散布 ○キシウスズメノヒエに適用あり
クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ ノビエ5葉期 収穫50日前まで	1,000ml (水100Lに希釈)	○ヒエ、広葉雑草の両方に効果 ○落水またはごく浅く湛水して散布 ○展着剤は加用しない

3 水管理

(1) 倒伏防止のためには、水管理が最も重要です。必要茎数（20本/株程度）が確保できたら、早めに中干しを実施します。

特に、「元気つくし」の倒伏防止のためには適期中干しが重要です。

(2) 中干し後は、間断かん水を行います。なお、中干しが不十分な所や、葉色が濃く倒伏の恐れのある所では、強めの間断かん水を行ってください。

(3) その後、穂ばらみ期から穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので水をためます。

4 穂肥

穂肥時期の目安と施用量は、以下のとおりです。それぞれのは場で幼穂長や葉色を観察し、穂肥時期や量を決定します。

品種	第1回目穂肥施用		10a当たり施用量(kg) NK7号	
	穂肥時期の目安	幼穂長 (mm)	1回目	2回目
元気つくし	8/3頃	5	15	10
ヒノヒカリ	8/10頃	3～5	20	なし
ツクシホマレ	8/13頃	2	25	20

※ 穂肥2回目は、1回目の約1週間後に施用します。

5 カメムシ対策

カメムシ対策には、出穂後の農薬による防除を行います。発生を抑えるためには、畦畔などの草刈りが重要です。イネの出穂14日前までに畦畔など水田周辺の除草を徹底し、カメムシのすみ処を無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシの水田への飛び込みを助長するので行わないでください。

6 病害虫防除

福岡管区气象台による向こう1か月(平成30年7月7日～平成30年8月6日)の天候の予想は、気温は高く、降水量は平年並～やや多いとなっております。ウンカ類や紋枯病の多発が懸念されます。ほ場での発生状況を十分観察し、適期防除に努めてください。また、育苗期間中に苗いもちが発生したところは、葉いもちの発生に特に注意が必要です。

① 葉いもちの発生を認めたら、下表のとおり早めに防除を行います。

品種	剤型	薬剤	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ ツクシホマレ	粒剤	コラトップ粒剤5	いもち病	4kg

② 基本防除は、下表のとおり8月中旬ごろに行います。

品種	剤型	薬剤	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし ヒノヒカリ	粉剤	アプロードモンカットスタークルF粉剤DL	ウンカ類	4kg/10a
	液剤	アプロードモンカットエア－ ＋スタークル顆粒水溶剤	紋枯病 カメムシ類	1000倍 2000倍
ツクシホマレ	粉剤	アプロードロムダンモンカットF粉剤DL	ウンカ類 紋枯病	4kg/10a
	液剤	アプロードロムダンモンカットエア－ ＋スタークル顆粒水溶剤	コブノメイガ	750倍 2000倍

※ アプロード剤に対するトビイロウンカの感受性が低下しているため、スタークル剤と混用して使用してください。

※ ウンカ類への効果を高めるため、防除作業はほ場に水をためた状態で行います。

※ ツクシホマレでカメムシ類が発生した場合は、補正防除としてスタークル剤を使用してください。

③ 出穂前～出穂期の補正防除は、以下の通りです。

元気つくしで、葉いもちが見られる場合は注意しましょう。

品 種	防除時期	薬 剤 (全品種とも粉・液いずれか)	適用病害虫	希釈倍数 (10aあたり使用量)
元気つくし	8月16～21日頃	(粉剤) ブラシントレボン粉剤 DL (液剤) ブラシントレボン水和 剤	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	4kg/10a
ヒノヒカリ	8月25～31日頃			
ツクシホマレ	8月31日～ 9月5日頃			

注) 液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!